

避難計画策定へ、大雪山火山防災協議会

大雪山旭岳（標高2千291㍎）を想定した火山噴火災害に備えて、避難体制などを検討する大雪山火山防災協議会（会長・松岡市郎町長）の総会が昨年12月21日、役場で開かれました。



避難計画の策定などに向けて関係行政機関、団体が集まる初の総会。松岡会長は「地震、火山噴火はいつ、どのような規模で、どこに発生するのか難しい」と備えの必要性を指摘しました。

「大雪山火山ハザードマップ」によると、旭岳の噴火は①水蒸気噴火②水蒸気噴火、マグマ水蒸気噴火③マグマ噴火の可能性がある3態様とし、警戒レベルを5段階としました。

「レベル1」は静穏な状態。「レベル2」は地震活動、熱活動が高まって噴火発生が予想、または噴火が発生するまで。

「レベル3」は、居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生、または予想され入山規制が必要。「レベル4」は水蒸気噴火が発生、「レベル

5」はマグマ噴火が発生して避難する場合と規定しました。

北海道大学理学研究院の中川光弘教授は「旭岳は観測事例がない。夏と冬の場合では対策がまったく違う。まず冬の対策をどうするか」などと検討課題も提示しました。

ハザードマップの検討などに沿って、今後3月ごろまでに、大雪山避難計画を策定する予定。

同協議会メンバーは、東川、上川、美瑛3町、上川総合振興局、札幌管区気象台、北海道通信局、ひがしかわ観光協会など21機関・団体、通信会社（順不同）。

美しい風景の賞に中村さん、虫谷さん、渡辺さん

東川町の本年度美しい風景

づくり賞に中村勲さん（70）

＝26＝、虫谷京子さん（77）

＝17区西町＝、渡辺稔さん

（75）＝北町3＝（五十音順

の3人の住宅がガーデンング部門を受賞し、昨年12月13日、



郷土芸能・羽衣太鼓、結成50周年

町の郷土芸能として活躍してきた羽衣太鼓が結成50周年を迎え、

昨年11月25日、せんとぴゅあーで記念演奏会と祝賀会を開きました。

羽衣太鼓は、故中田正俊さんが初代会長になって6人で活動を始め、創立40周年を機に保存会を立ち上げまし



た。青木保存会長は祝賀会で「昭和44年の設立以来、今年で50年を迎え、世界に羽ばたく活動をしてきた。平成7年にはラトビア、翌年にはフランス遠征を行い、大きな経験になった」と振り返りました。2009（平成21）年には東川町文化賞を受賞しています。

勇壮な響きで華を添えました（出演順）。

祝賀会には、結成26年目の羽衣太鼓ジュニアのメンバー児童も出席。歴代15代の会長らとともに一層の活動を誓いました。

役場で授賞式を行いました。

中村さん、渡辺さんは、そ

れぞれ妻のキツヨさん（70）、

令子さん（73）と一緒に出席

し、松岡市郎町長から表彰を

受けました。中村さんは、北海道の野草

で庭づくりを心掛けているそうです。「自然な景観になるように心がけています。5月から10月まで、いろいろな花が次々と咲くようにしています」と庭造りの工夫と特長を話しました。

渡辺さんは、東川生まれの令子さんと一緒に旭川市内から転居して在住30年ほどになり「これからも庭づくりに励みたい」と気持ちを新たにしました。